

# 決算説明会

## 2022年3月期 第2四半期

**ミネベアミツミ株式会社**

**2021年11月5日**

## 1. 業績の説明

## 2. 事業概況と経営戦略

# 業績の説明

取締役 専務執行役員 吉田 勝彦

## 売上高、営業利益、四半期利益ともに 第2四半期として過去最高

(百万円)	2021年3月期	2022年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	2Q	1Q	2Q		
売上高	274,267	248,305	281,955	+2.8%	+13.6%
営業利益	17,513	19,628	25,005	+42.8%	+27.4%
税引前利益	16,931	19,603	24,716	+46.0%	+26.1%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	13,209	14,659	20,393	+54.4%	+39.1%
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	32.34	36.11	50.36	+55.7%	+39.5%

為替レート	2021年3月期 2Q	2022年3月期 1Q	2022年3月期 2Q
US\$	105.90円	108.99円	110.10円
ユーロ	123.56円	130.84円	130.82円
タイバーツ	3.41円	3.50円	3.40円
人民元	15.16円	16.80円	17.05円

# 上半期連結業績サマリー

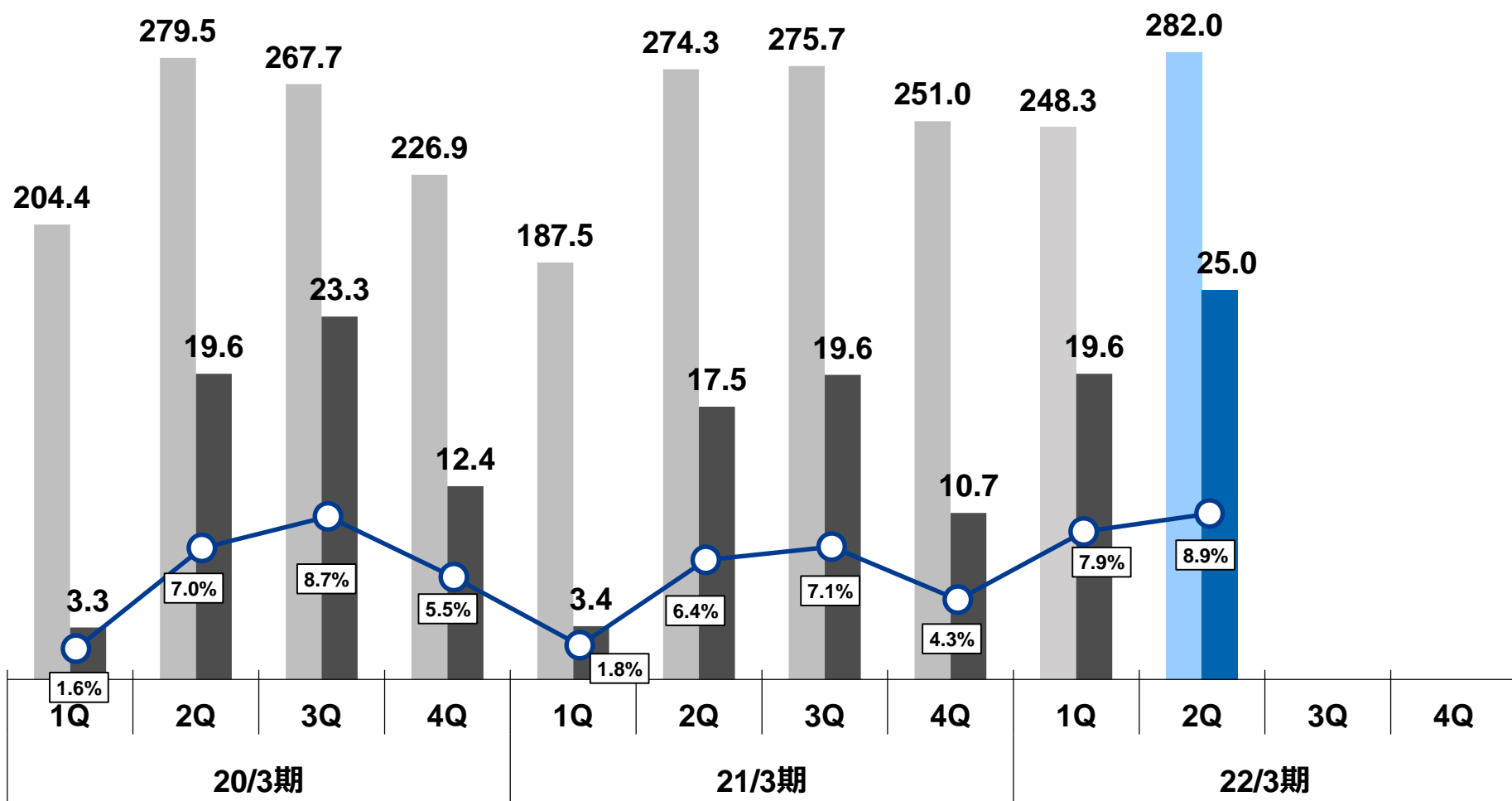
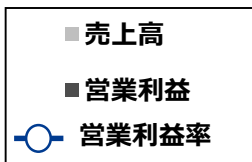
## 売上高、営業利益、当期利益ともに 上半期として過去最高

(百万円)	2021年3月期	2022年3月期	前年同期比 伸び率	2022年3月期上半期	
	上半期	上半期		8月予想	達成率
売上高	461,730	530,260	+14.8%	537,000	-1.3%
営業利益	20,922	44,633	2.1倍	45,000	-0.8%
税引前利益	20,250	44,319	2.2倍	44,500	-0.4%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	15,425	35,052	2.3倍	34,500	+1.6%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	37.77	86.45	2.3倍	84.99	+1.7%

為替レート	2021年3月期 上半期	2022年3月期 上半期
US\$	106.82円	109.55円
ユーロ	120.90円	130.83円
タイバーツ	3.38円	3.45円
人民元	15.14円	16.93円

# 売上高、営業利益、営業利益率

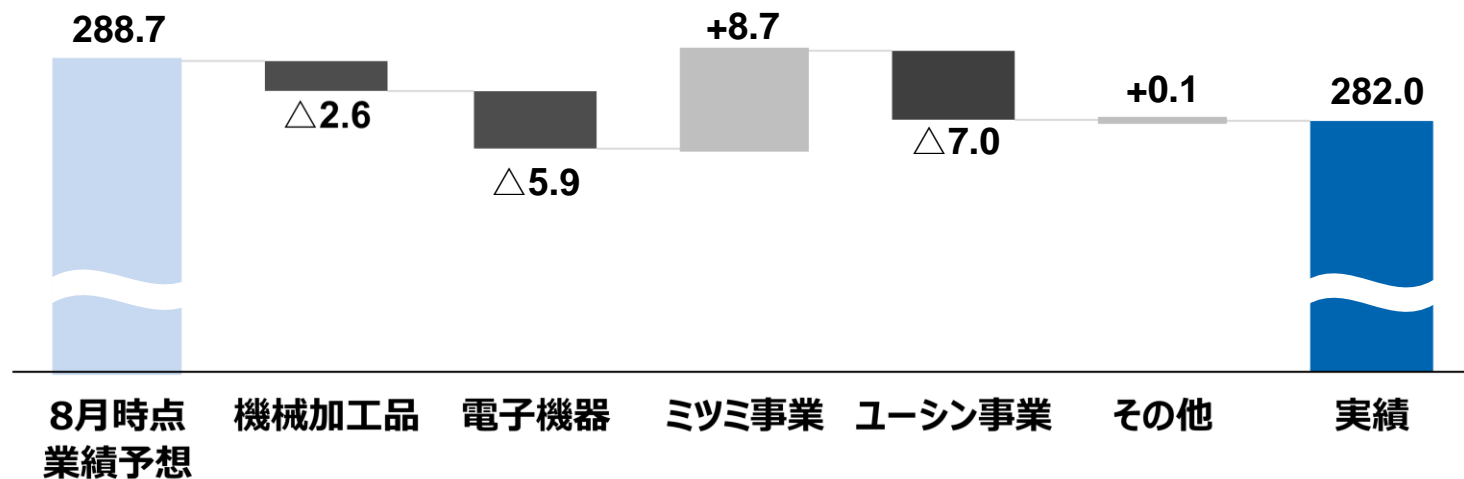
(10億円)



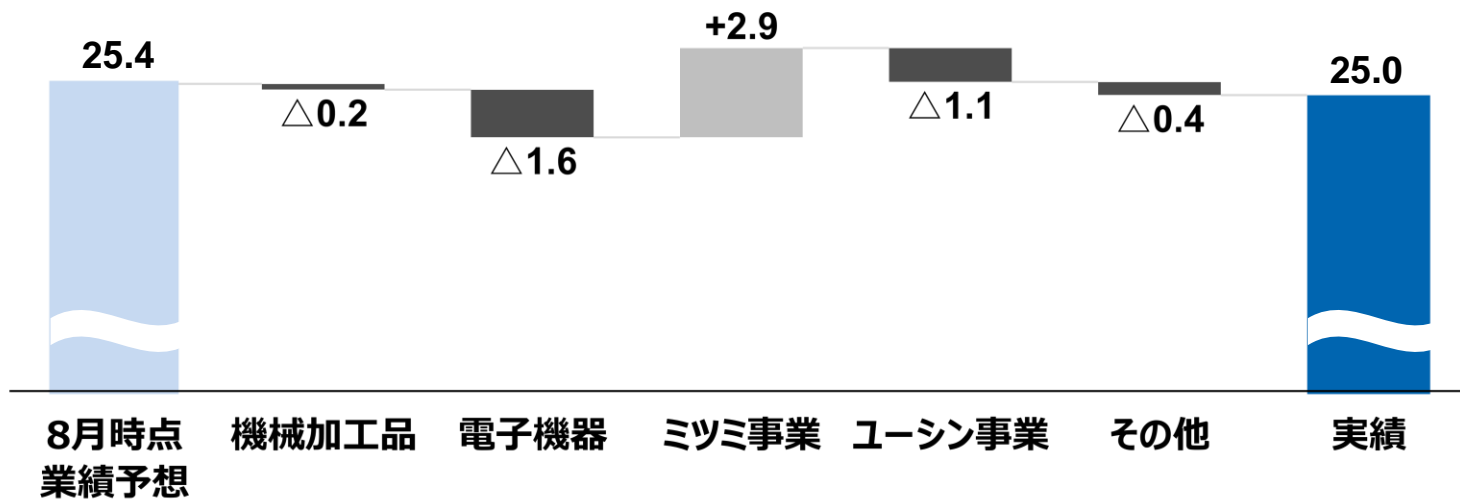
# 2Q実績 8月時点業績予想からの差異

(10億円)

## 売上高

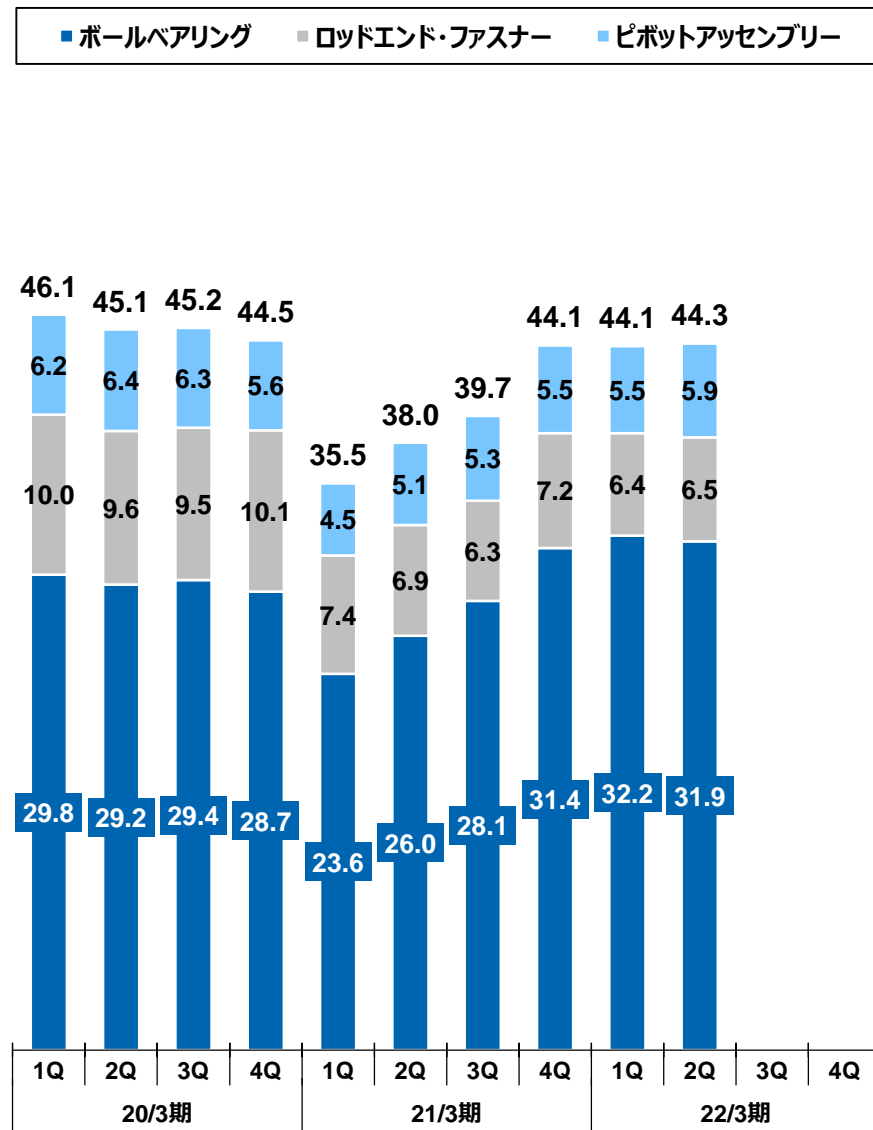


## 営業利益

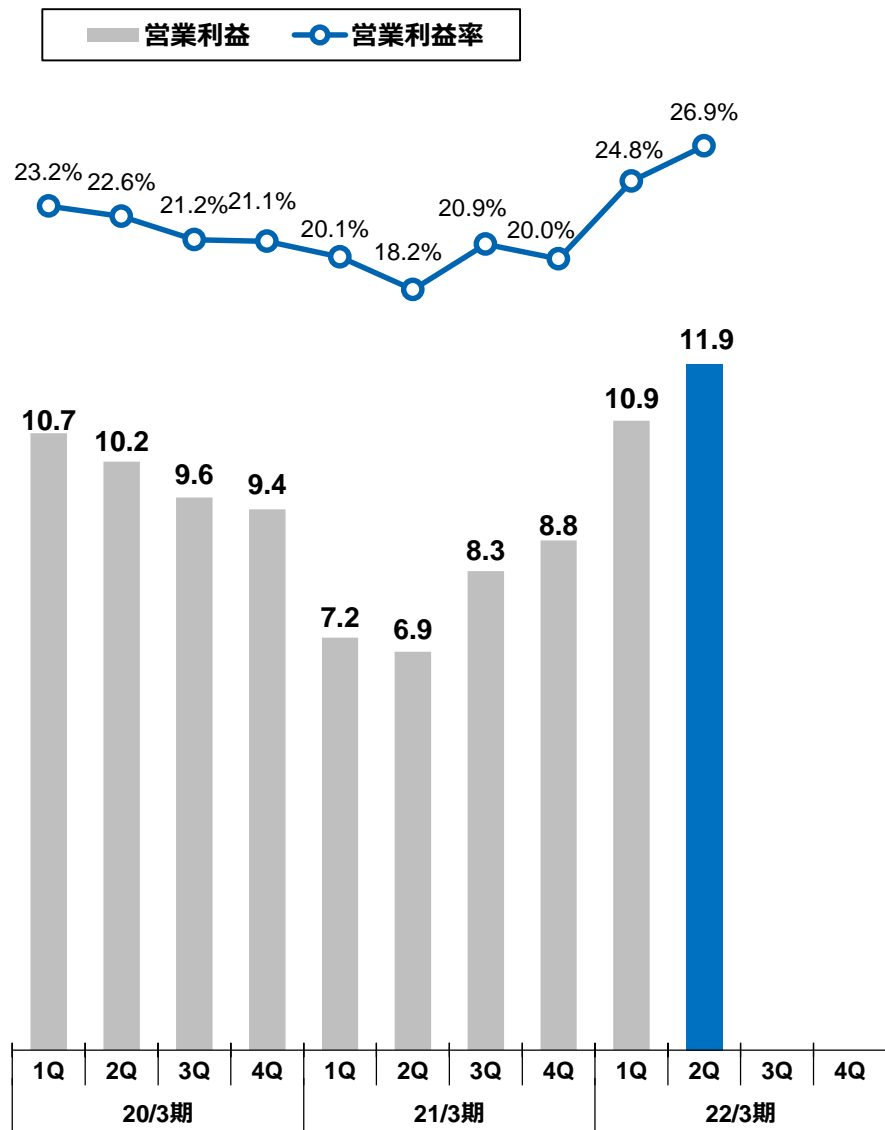


# 機械加工品事業セグメント

## 売上高 (10億円)



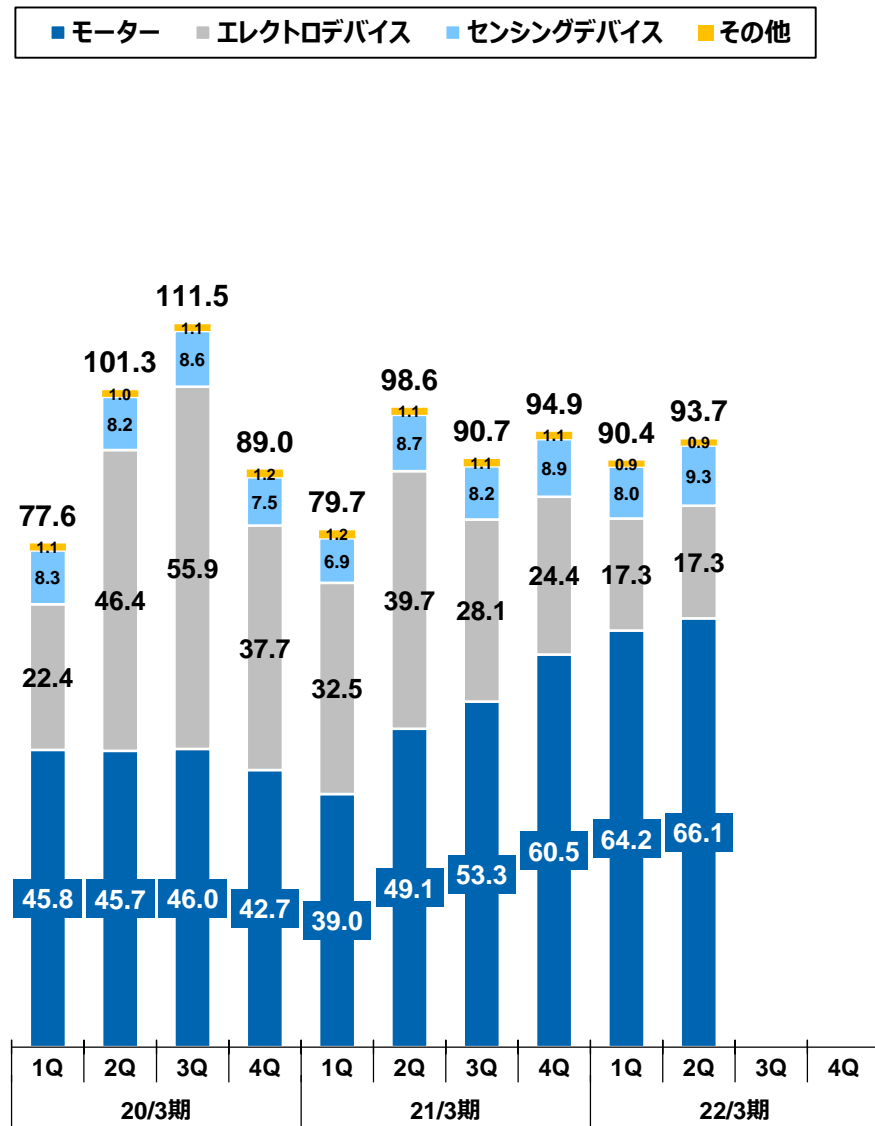
## 営業利益 (10億円)



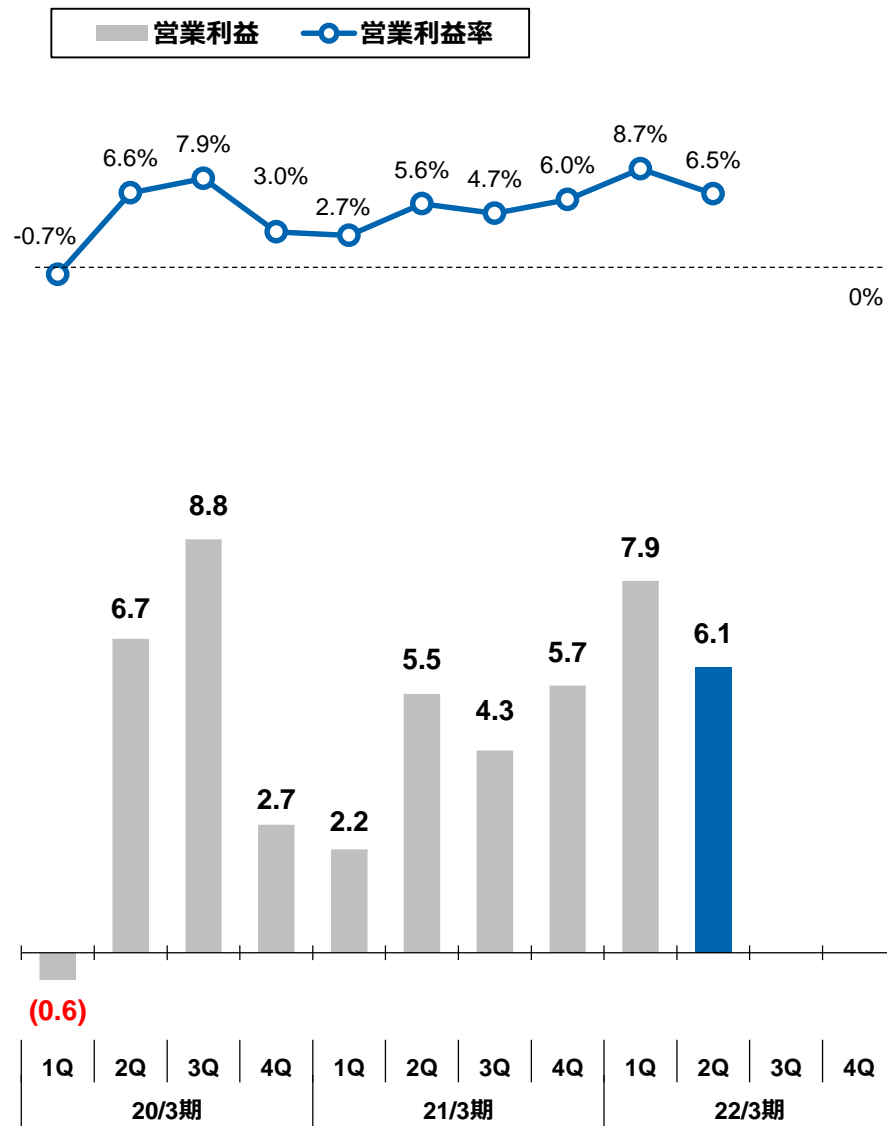


# 電子機器事業セグメント

## 売上高 (10億円)

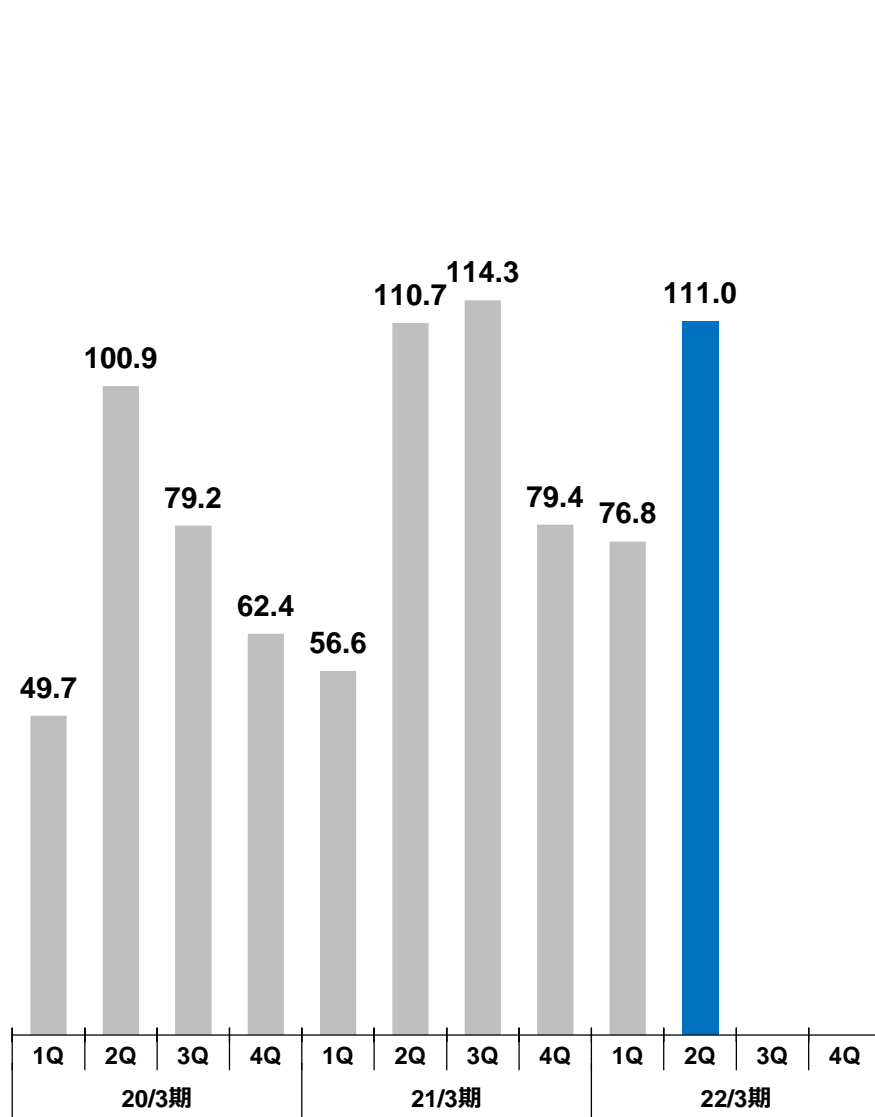


## 営業利益 (10億円)

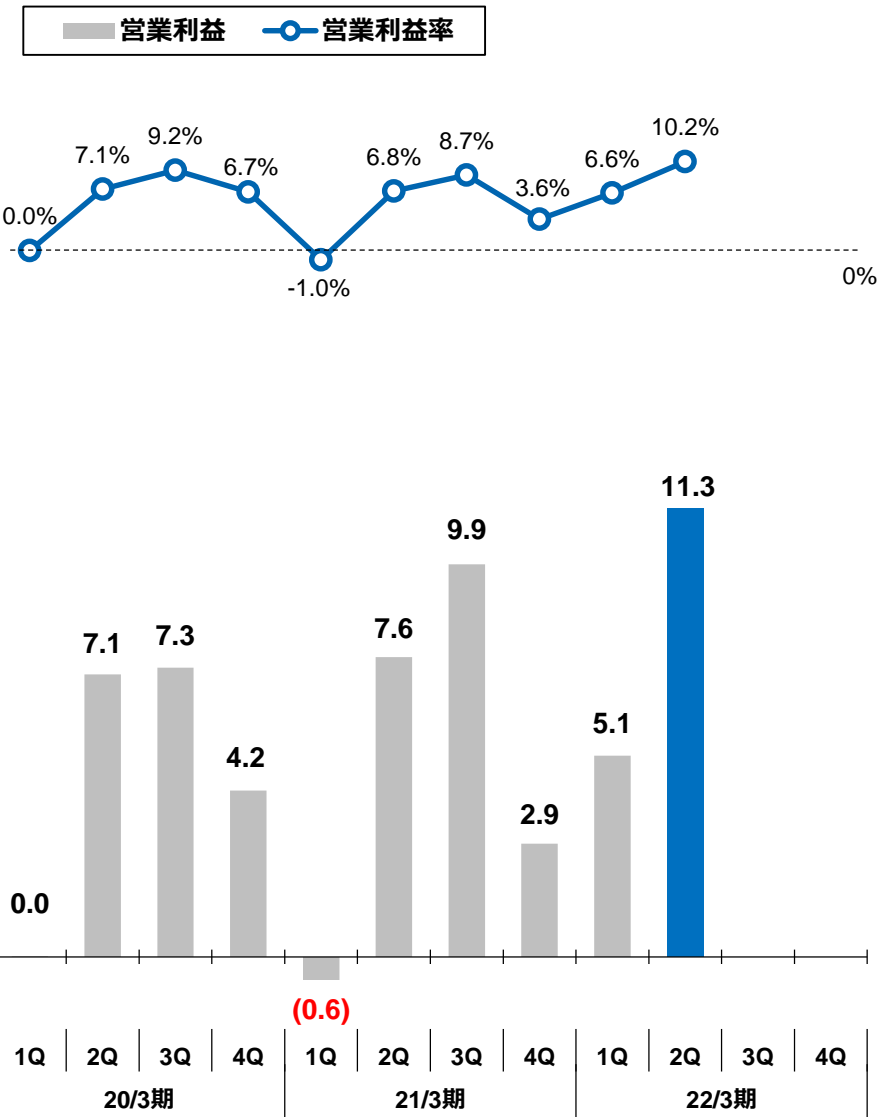


# ミツミ事業セグメント

## 売上高 (10億円)

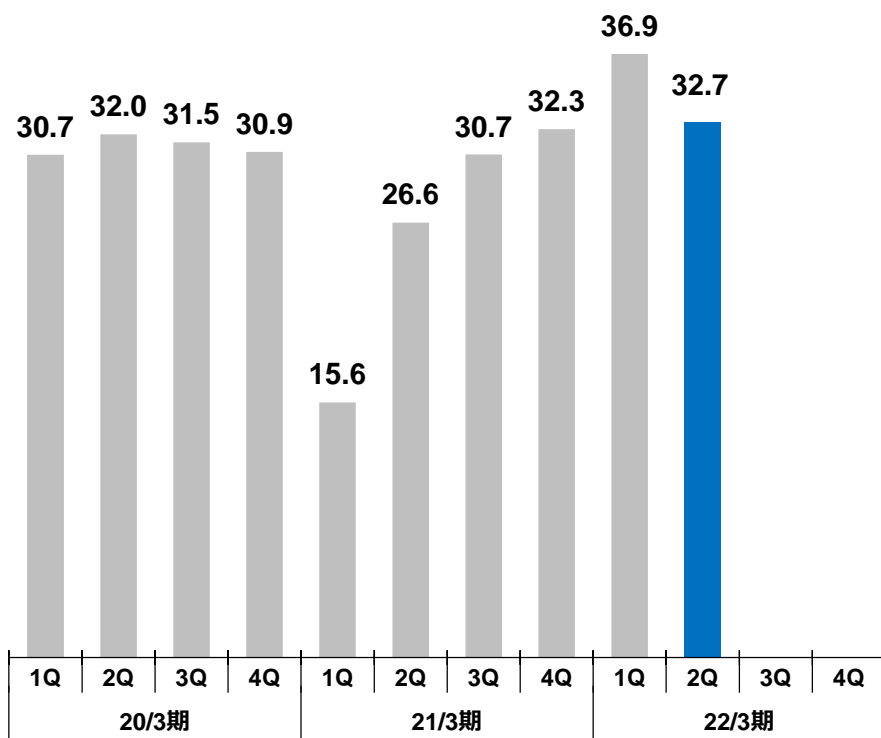


## 営業利益 (10億円)

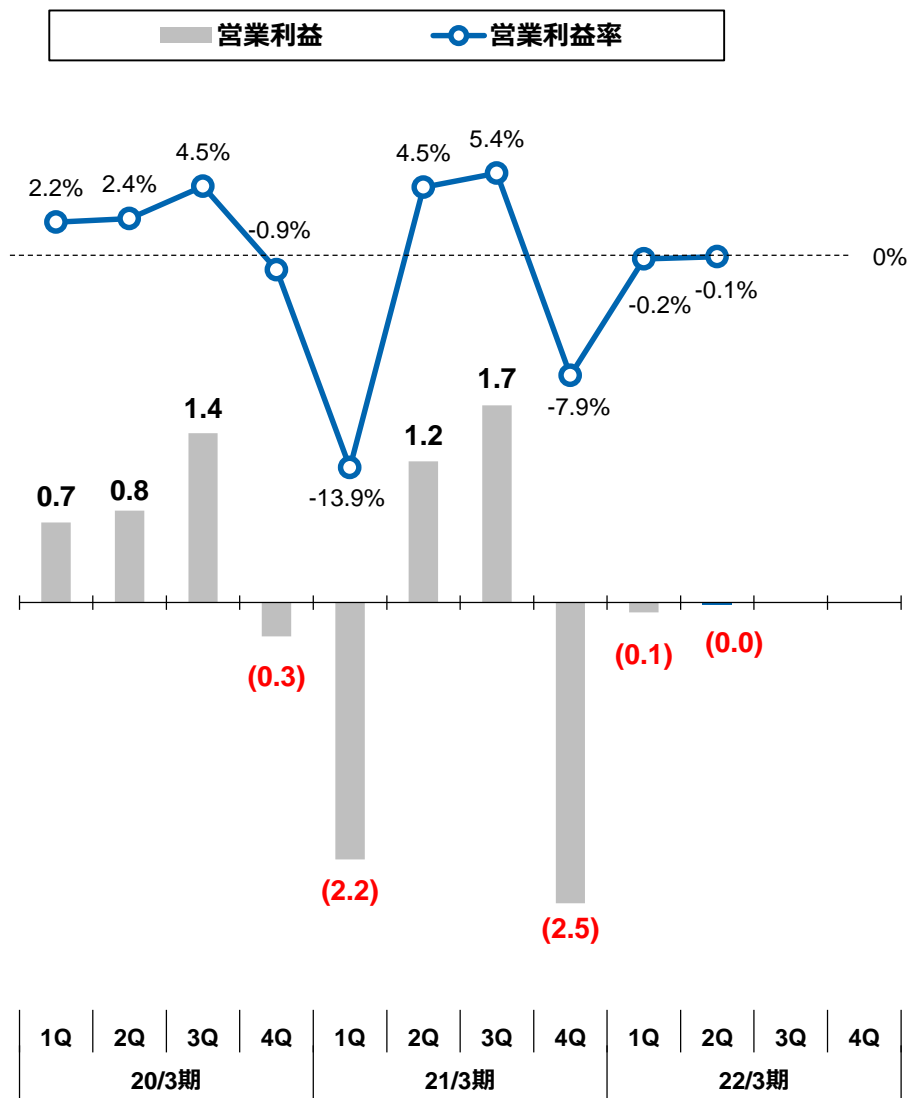


# ユーシン事業セグメント

## 売上高 (10億円)



## 営業利益 (10億円)

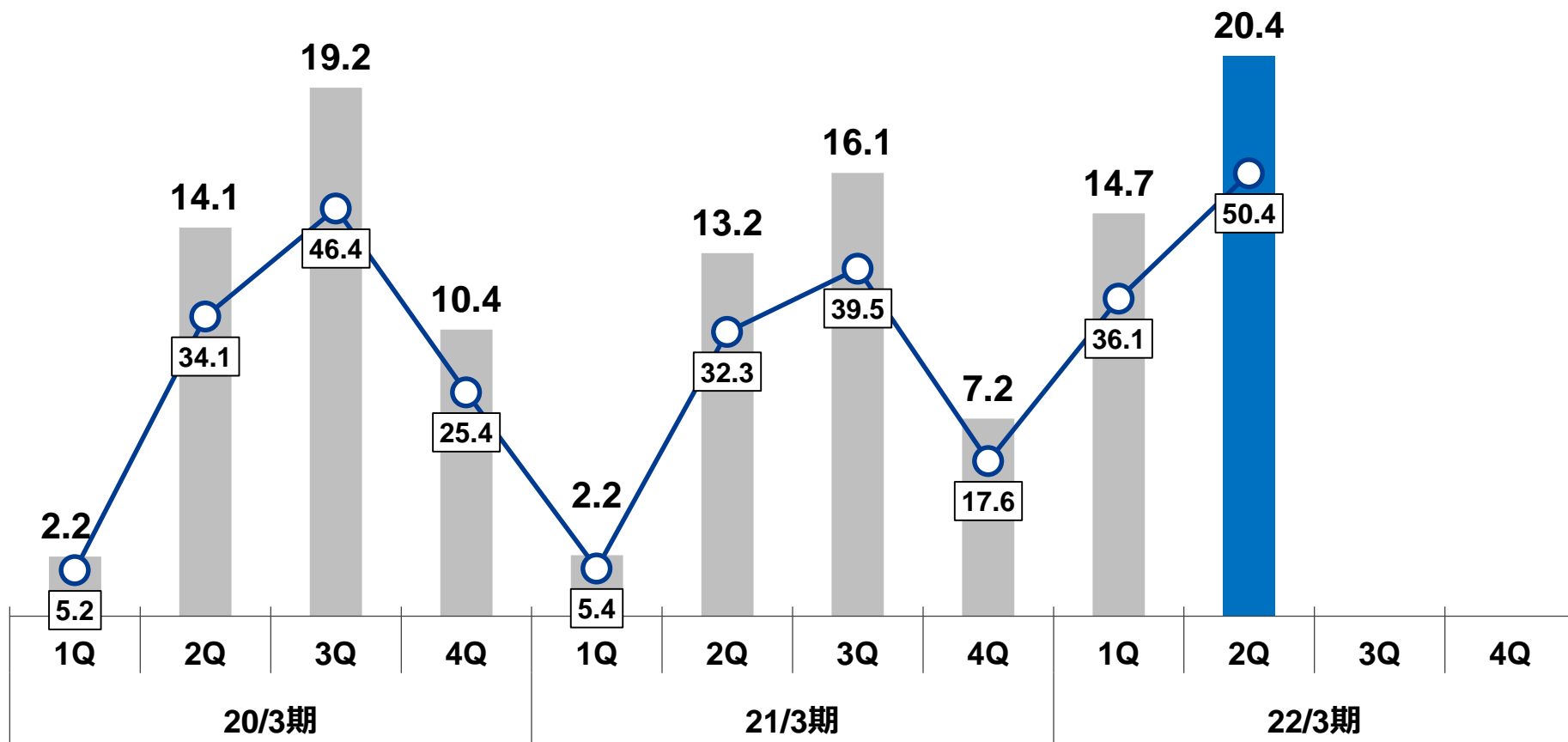


\*PPAにより、20/3期は修正

# 親会社の所有者に帰属する四半期利益

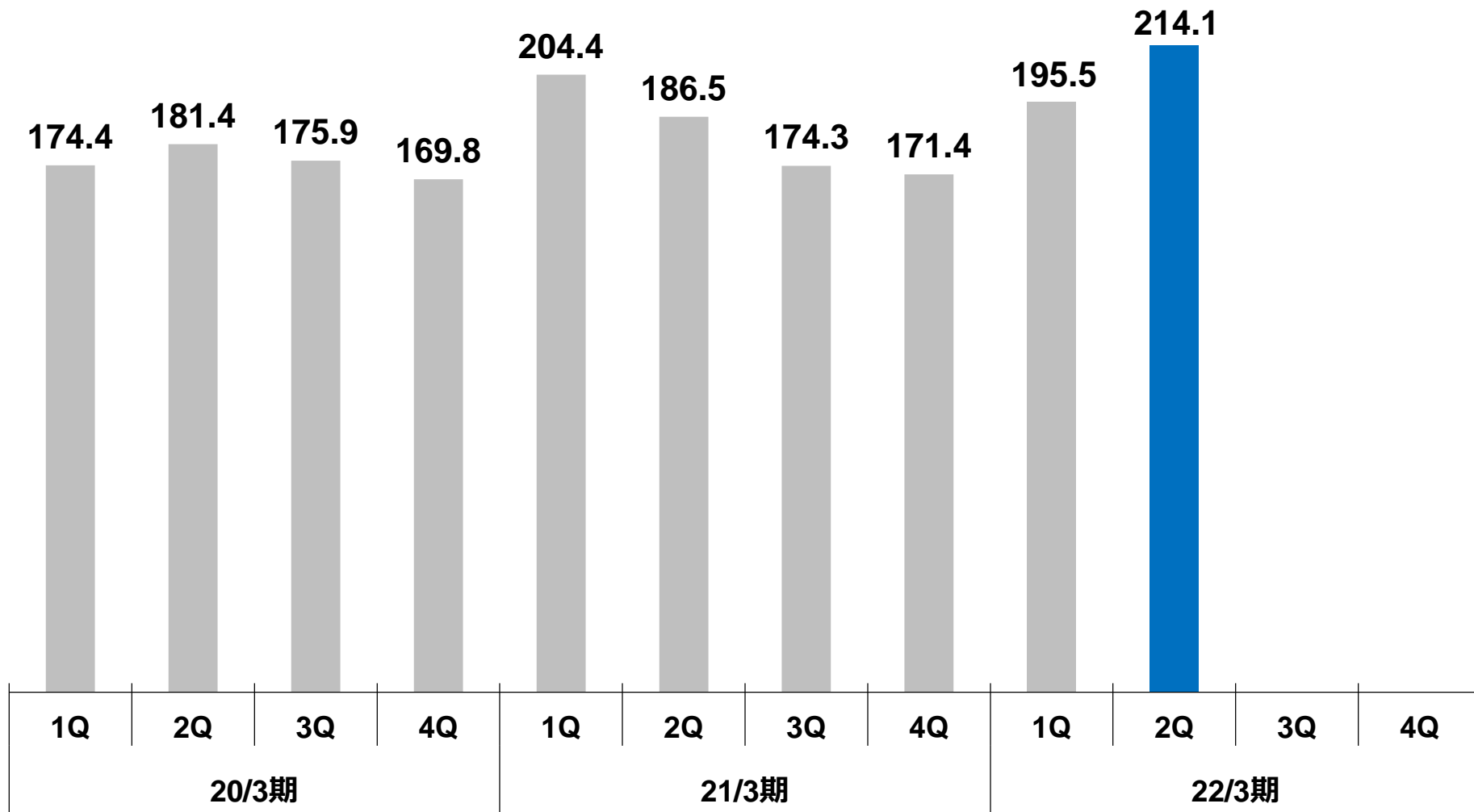
(10億円)

■ 親会社の所有者に帰属する四半期利益  
○ 基本的1株当たり四半期利益 (円)



# 棚卸資産

(10億円)

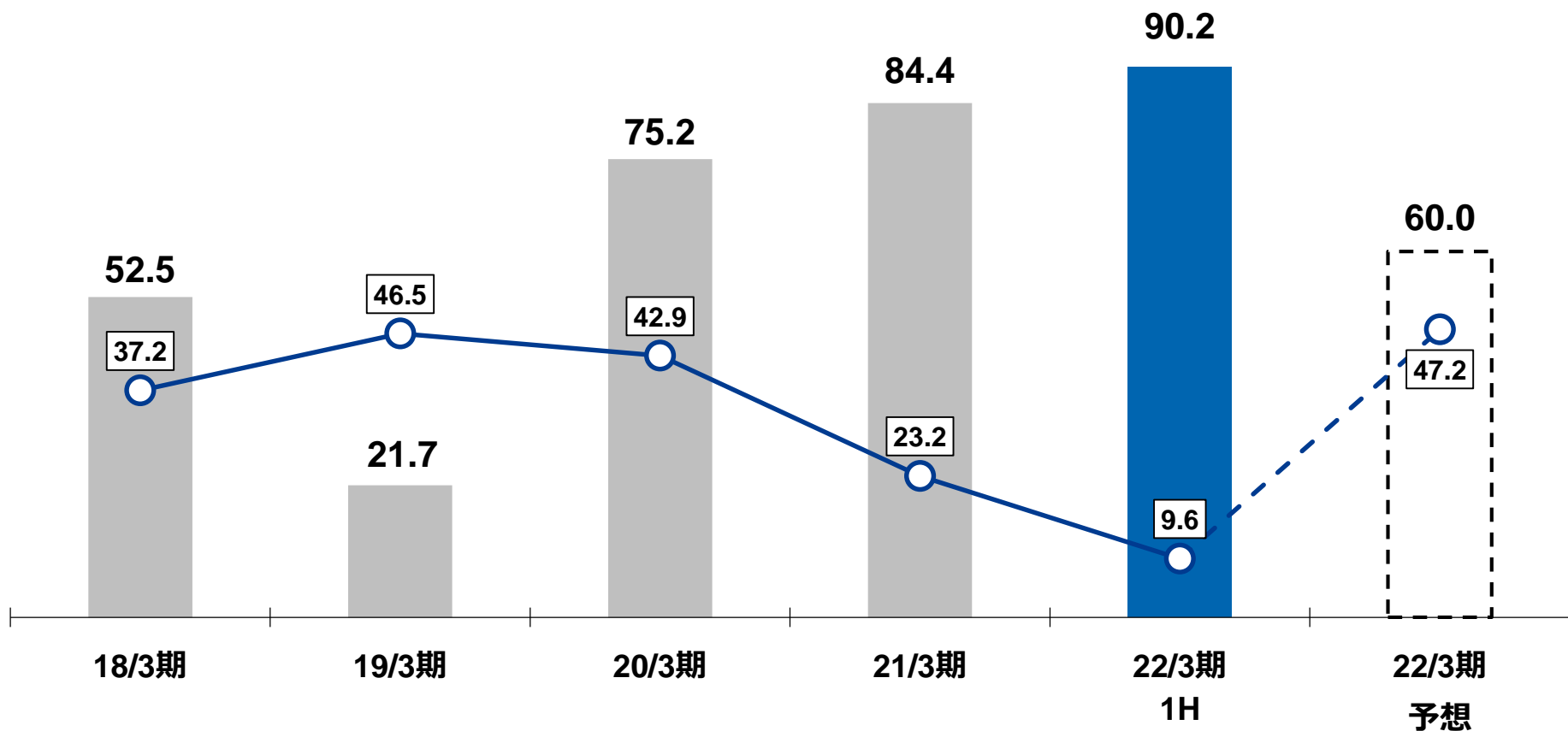


# ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

18/3期はJGAAP

■ ネット有利子負債\*    ○ フリーキャッシュフロー

(10億円)



\*ネット有利子負債：連結財政状態計算書上の「社債および借入金」 - (「現金および現金同等物」+ 3か月超の定期預金)

← [JGAAP]

[IFRS] →

## 通期業績予想を上方修正

(百万円)	2021年3月期	2022年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	988,424	530,260	519,740	1,050,000	+6.2%
営業利益	51,166	44,633	45,367	90,000	+75.9%
税引前利益	49,527	44,319	44,681	89,000	+79.7%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	38,759	35,052	36,948	72,000	+85.8%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	94.95	86.45	91.24	177.69	+87.1%

為替レート	2021年3月期 通期	2022年3月期 下半期想定
US\$	105.79円	110.00円
ユーロ	123.22円	130.00円
タイバーツ	3.40円	3.35円
人民元	15.52円	17.50円

# セグメント別業績予想

(百万円)	2021年3月期 通期 (組替後)	2022年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	988,424	530,260	519,740	1,050,000	+6.2%
機械加工品	157,411	88,357	88,643	177,000	+12.4%
電子機器	345,595	184,127	177,873	362,000	+4.7%
ミツミ事業	352,277	187,710	183,290	371,000	+5.3%
ユーシン事業	132,112	69,579	69,421	139,000	+5.2%
その他	1,029	487	513	1,000	-2.8%
営業利益	51,166	44,633	45,367	90,000	+75.9%
機械加工品	31,223	22,819	24,181	47,000	+50.5%
電子機器	17,685	13,941	11,059	25,000	+41.4%
ミツミ事業	20,458	16,414	16,586	33,000	+61.3%
ユーシン事業	△ 2,594	△ 104	2,104	2,000	-
その他	△ 1,908	△ 910	△ 1,090	△ 2,000	+4.8%
調整額	△ 13,698	△ 7,527	△ 7,473	△ 15,000	+9.5%



# 事業概況と経営戦略

Business Update & Management Strategy

2021年11月5日

代表取締役 会長兼社長執行役員  
(CEO & COO)

貝沼 由久



## 通期営業利益予想は900億円とする

### 下半期のポイント

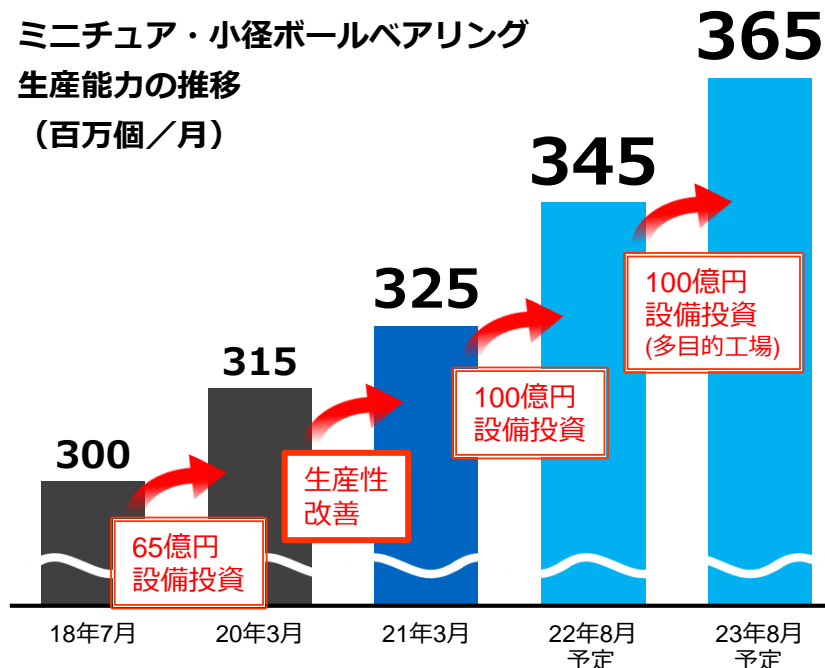
- **3本槍（ベアリング、モーター、アナログ半導体）+OIS**が引き続き当社全体の業績を大きくけん引する。
- **ベアリング**は月産345百万個の早期実現に向け生産効率を引き上げ、さらなる収益性向上を図る。
- **モーター**は収益の柱として成長。全社収益を支える核として下半期も成長継続。
- **アナログ半導体**はさらなる収益の上積みを目指す。
- **OIS**は主要顧客向けに順調。来期以降の新規顧客の増加に備える。

(百万円)	2021年3月期 通期	2022年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	988,424	530,260	519,740	1,050,000	+6.2%
営業利益	51,166	44,633	45,367	90,000	+75.9%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	38,759	35,052	36,948	72,000	+85.8%
基本的1株当たり 当期利益（円）	94.95	86.45	91.24	177.69	+87.1%

## 生産能力増強を優先し圧倒的競争力を確保する

### 1 ボールベアリング事業

- 外販数量は下半期も一部半導体不足の影響が残るも、前年同期比で増加トレンドが継続。
- **最も投資効率の高い地域において23年8月（予定）に月産365百万個体制を構築**する。  
→適正在庫を確保し、生産効率向上とコスト改善（セット替えや輸送費のロス低減など）へ。
- ベアリングの革新的精度向上による消費電力削減、製品寿命向上の取り組みを加速。



### 2 航空機関連事業

- 22年下半年から23年下半年にかけてコロナ前までの回復を見込む。  
→プッシュ型からプル型生産への改善で需要回復に備える。
- CO<sub>2</sub>排出削減に貢献する新領域への大型ビジネス獲得により、市況回復より早い成長に期待。

#### 航空機向け新規ビジネスの領域（開発案件含む）

キーワード：低燃費、省エネ、電動化、軽量素材



新機能ランディングギア



低燃費エンジン



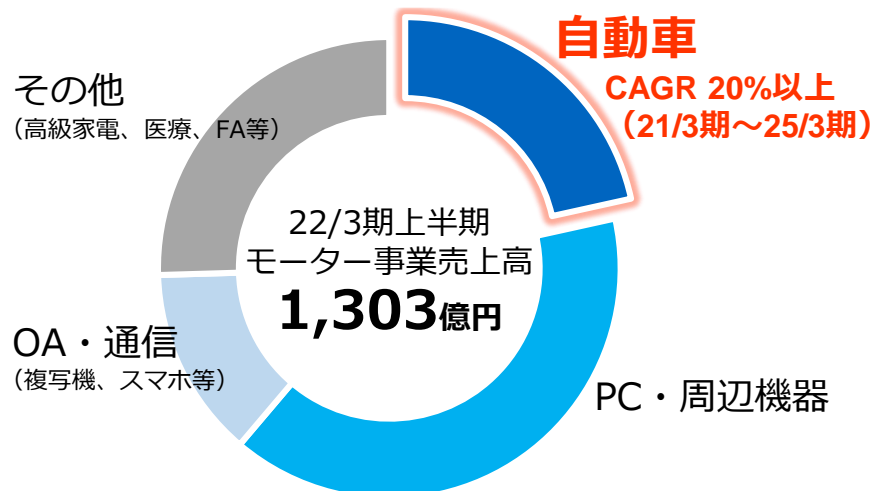
電動航空機

## モーターを中心とした事業全体の 安定的な成長の土台が固まる

### モーター事業

- 徹底したコストダウンとプロダクトミックス改善の成果が顕在化。
- 上半期は自動車の減速、原材料価格高騰、半導体不足の影響があっても**モーター事業として過去最高水準の収益**を達成。
- EVを含む自動車向け新規量産製品が続々と立ち上がる。

### モーター事業 用途別売上高



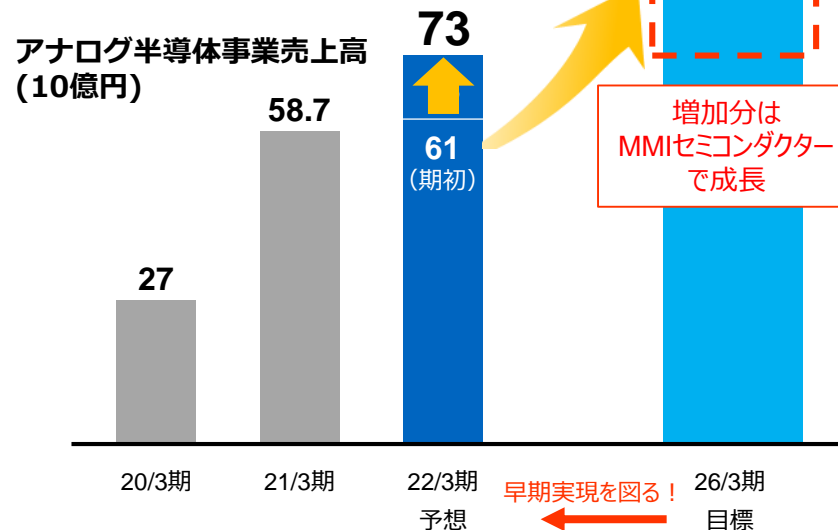
### EV向け主要モーター製品の一例

EV固有機能	環境機能
 <p>トラクション モーター向け レゾルバ</p>	 <p>アクティブ・ グリル・ アクチュエーター</p>
 <p>EV用二次電池 冷却FAN</p>	 <p>バルブ用 アクチュエーター</p>
安全機能	快適機能
 <p>EPB用DCモーター</p>	 <p>HVAC用 ステッピングモーター</p>
 <p>LIN Bus Type ヘッドライト アクチュエータ</p>	 <p>シートベンチレーション</p>
 <p>ヘッドライト冷却FAN</p>	 <p>ADAS用 ECU/GPU冷却FAN</p>

## 事業ポートフォリオの強靱化と「相合」によるシナジー創出を加速する

### 1 アナログ半導体事業

- 今期売上は730億円達成の見込み。**1,000億円の早期実現を図る。**
- 市況に応じてフレキシブルな価格政策を実施。
- MMIセミコンダクター（旧オムロン野洲）の来期の収益貢献に向けてPMIが始動。
- 将来に向けた新たな拡販活動を推進。  
→MEMS、IGBT、モータードライバー

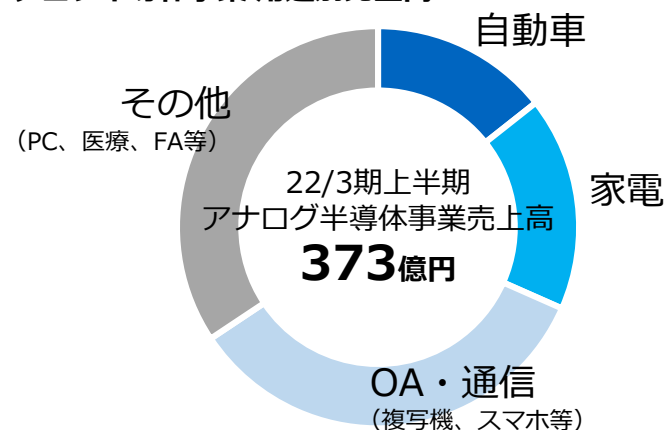


### 2 光デバイス事業\*・機構部品事業

- 光デバイスは引き続き堅調。
- カンボジア工場へ新規顧客向け生産ラインを導入中（11月より順次実施）。  
→新規顧客向けで爆発的成長のポテンシャルあり。
- ゲームは来期も堅調と予想。

\* 光デバイスは OIS と VCM を含みます。

アナログ半導体事業 用途別売上高



## コスト削減策と「相合」による 次世代向け製品の拡販準備を並行する

### 1 自動車事業

- 3Qは一部半導体不足の影響が残り、4Qは緩やかな挽回を見込むも、**基本的スタンスは自動車産業の回復をじっくり待つ。**
- 相合戦略の成果が発現し高付加価値製品の新規受注が活性化。  
→**フラッシュハンドル、E-Latch、CSD**
- Tier1ノウハウを結集し車載デバイス事業（アンテナ）の体質改善を図る。
- **2024年以降のオーダーが著しく増加。**

### 2 欧州構造改革の状況

- 低価格品を撤退し相合できる製品にフォーカス。
- 人員削減による固定費低減は来期に貢献。

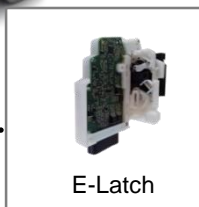
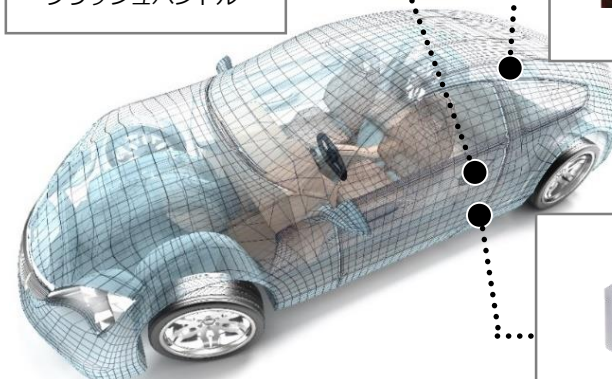
#### 次の成長の柱となる注力製品

**フラッシュハンドル**：リモコンキーを持った人が車に近づくとドア表面からハンドルが自動的に出てくる。デザイン性や空力性能の向上に貢献。

**E-Latch**：小型軽量化を図った電氣的解除のラッチ（ドアを施解錠する装置）。

**CSD\***：車両のバックドアの両端に搭載し、バックドアの電動開閉をおこなう。

\*Compact spindle drive



## 来期営業利益1,000億円を実現する主力事業



ベアリング

月産能力2,000万個増量



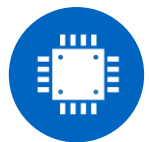
航空機関連

営業利益はコロナ前の70%まで回復



モーター

自動車向け新規量産品立ち上がり



アナログ半導体

下半期より滋賀工場\*立ち上がり  
MEMSを特急で拡販

\*MMIセミコンダクター



OIS

売上高 今年度比1.3倍へ



ゲーム関連

引き続き堅調と予想

22/3期予想対比

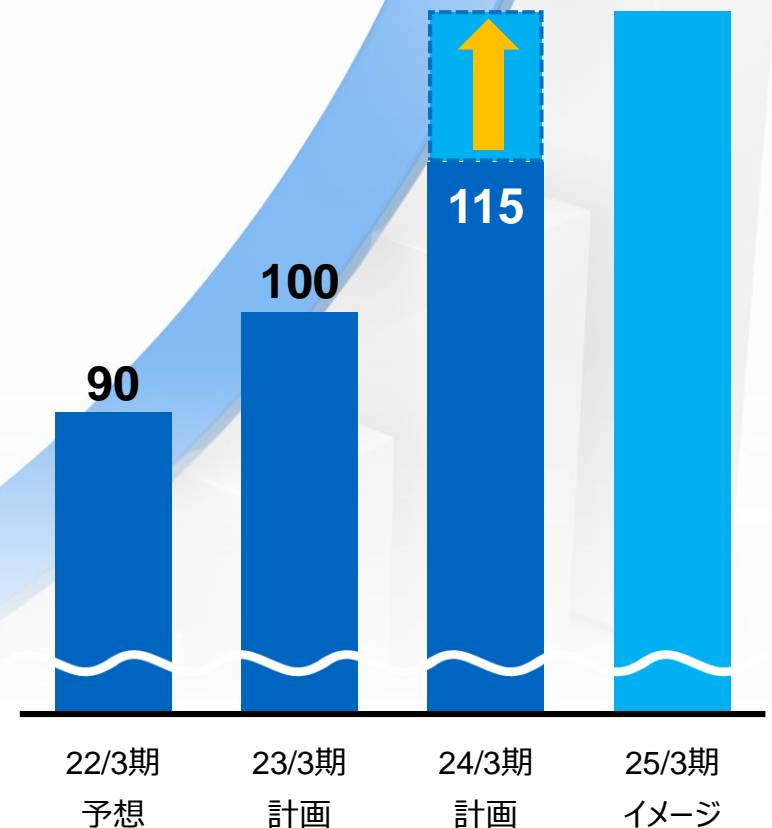
## 主な増益ポテンシャルのイメージ（24/3期～25/3期）

ベアリング (航空機関連含む)	+100 億円
モーター	+80 億円
アナログ半導体	+50 億円
OIS	+70 億円
その他	+100 億円

合計 **+400 億円**

(M&Aを除くオーガニック成長のみ)

営業利益のイメージ  
(10億円)





## 2本柱で世界のCO<sub>2</sub>排出削減に貢献



### ① カーボンニュートラルへの挑戦

#### 自社のCO<sub>2</sub>排出削減の推進

再生エネルギーの活用や省エネルギーの推進で  
カーボンニュートラルを目指す

2030年度  
CO<sub>2</sub>排出削減量  
(2020年度比) **▲ 30%減**

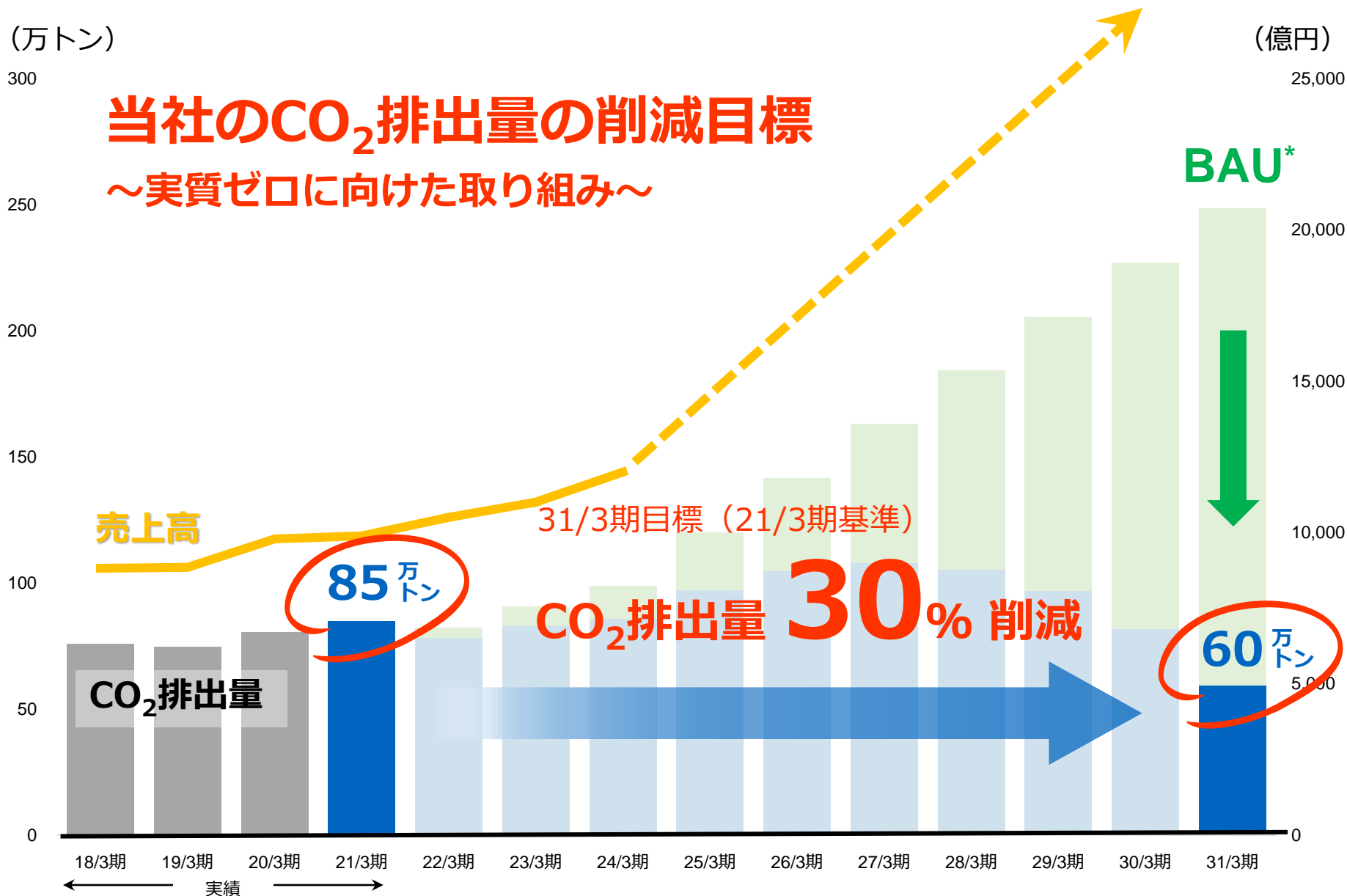
### ② MMIビヨンドゼロの推進

#### お客様のCO<sub>2</sub>排出削減のサポート

当社製品の省エネ効率の向上を通して  
世界全体のカーボンニュートラルに貢献  
(一世代前の当社製品と比較したCO<sub>2</sub>排出削減量を算定)

2030年度  
排出削減貢献量  
(2020年度比) **30%増**

# ①カーボンニュートラルに向けて



## 超精密技術の相合で 「ビヨンド ゼロ」を実現 自社のCO<sub>2</sub>排出量削減に加え、世界のCO<sub>2</sub>排出量削減をサポート

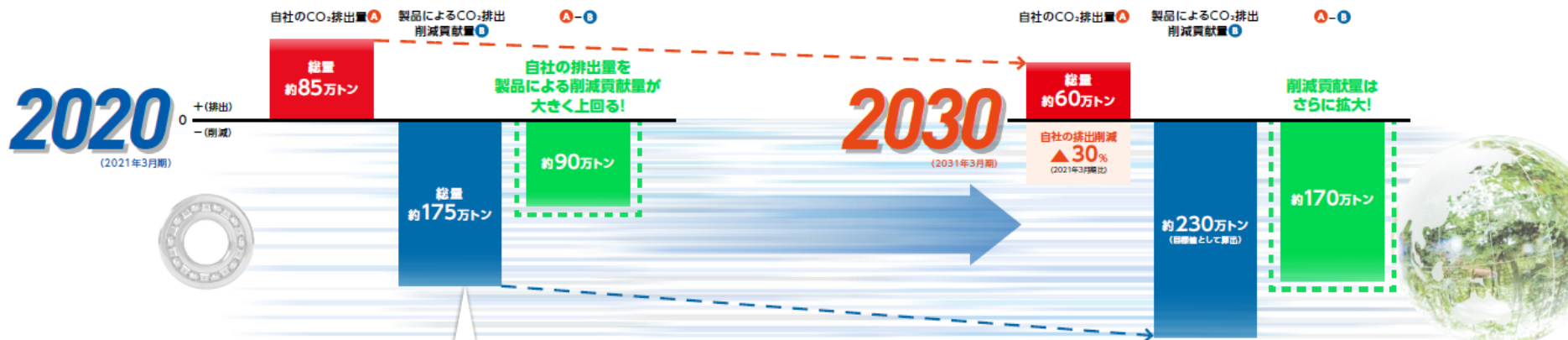
100周年・2051年のための新たな戦略

**Q C D E S S**™  
uality ost elivery **co** /efficiency ervice peed

ミネベアミツミは、世界中で気候変動への取り組みが喫緊の課題となるなかで、2051年の当社100周年に向けた基礎固めとして、QCDS(品質・価格・納期・サービス)に、Eco(環境)・Efficiency(効率)、そしてSpeed(スピード)を加えた「QCDESS」を新たな経営戦略として発表し、事業活動そのものを通じた環境負荷低減への対応を加速していきます。

自社のCO<sub>2</sub>排出量削減 + 世界のCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献 ▶ 世界全体への貢献  
**ビヨンド ゼロ**へ

当社は、自社のCO<sub>2</sub>排出量の削減努力に加え、当社の部品をご使用いただいている世界のお客様のCO<sub>2</sub>排出量を削減することで、世界全体のCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献しております。そして、この取り組みを「ビヨンド ゼロ」と定義し、削減貢献量をさらに拡大することで、2030年、そして2050年の持続可能な地球環境の実現に貢献してまいります。



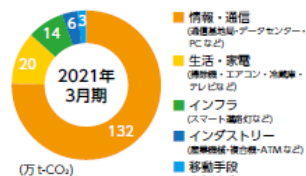
### ミネベアミツミ グリーンプロダクツ

ミネベアミツミの超精密製品は、摩擦や抵抗を減らすことで省スペースや省エネルギー化に貢献し、製品・事業そのものが地球環境改善に貢献しています。2019年より、特に環境貢献に優れた製品を「ミネベアミツミ グリーンプロダクツ」として認定しています。

ベアリングをはじめとする各製品単品の超精密技術を極限まで高めるとともに、コア事業・コア技術を相い合わせる「相合」でシナジーを発揮し、お客様のCO<sub>2</sub>排出削減貢献量をさらに拡大していきます。



### CO<sub>2</sub>排出削減貢献量と用途別内訳



「CO<sub>2</sub>排出削減貢献量」は、「電子情報技術産業協会(JEITA)ガイドライン」等に基づき算出しておりますが、「GHGプロトコル」のScope 1, 2, 3では算定対象外とされています(当社はBtoB部品メーカーであるため)。しかしながら、当社の高品質な製品を使用いただくことにより、お客様の製品におけるCO<sub>2</sub>排出削減に貢献するという考えに基づき、独自のKPIとして算出・可視化しております。

GHGプロトコルに基づく Scope 1, 2, 3に関する数値開示、製品のCO<sub>2</sub>排出削減貢献量の詳細 P.53-56

算定式

$$CO_2\text{排出削減貢献量} = C_d \times \Delta W_r \times L \times H_{op} \times C_{coef} \times S$$

$C_d$ : 削減貢献量 (kg CO<sub>2</sub>e)  $\Delta W_r$ : 定格条件での消費電力削減分 (kW)  $L$ : 定格での使用条件に対する稼働状態の占有率  $H_{op}$ : 稼働時間 (h)  $C_{coef}$ : 消費電力のCO<sub>2</sub>排出係数 (0.5001 kg CO<sub>2</sub>/kWh ※日本の平均排出係数)  $S$ : 販売数量

製品の省エネルギー効率をあげ、販売数量を拡大することによって、CO<sub>2</sub>排出削減貢献量を拡大!

製品の省エネルギー効率をあげ、多くのお客様にご利用いただくことによってCO<sub>2</sub>排出削減貢献量を拡大!



# 当社製ベアリングの精度を高めることにより お客様の製品での省エネ効率の向上を確認！

当社製 精度向上ベアリングを  
エアコン用モーターに採用することだけで

CO<sub>2</sub>排出削減貢献量

**13万トン**



\*

13万トンのCO<sub>2</sub>を身近なものに例えると・・・

スギによる  
CO<sub>2</sub>の  
年間吸収量



約**1,500**万本分<sup>\*\*</sup>

日本人による  
CO<sub>2</sub>の  
年間排出量



約**15,000**人分<sup>\*\*\*</sup>

### CO<sub>2</sub>排出削減貢献量の算定式

$$Cd = \Delta W_r \times L \times H_{op} \times Coef_e \times S$$

$C_d$ : 直接貢献量 (kg-CO<sub>2</sub>)     $\Delta W_r$ : 定格条件での消費電力削減分 (kW)     $L$ : 定格での使用条件に対する実働状態の負荷率     $H_{op}$ : 稼働時間 (h)  
 $Coef_e$ : 消費電力のCO<sub>2</sub>排出係数 (0.5001 kg-CO<sub>2</sub>/kWh ※日本の平均排出係数)     $S$ : 販売数量

「CO<sub>2</sub>排出削減貢献量」は、「電子情報技術産業協会(JEITA)ガイドライン」等に準じて算出していますが、「GHGプロトコル」のScope1,2,3では算定対象外とされています(当社はBtoB部品メーカーであるため)。

しかしながら、当社の高品質な製品を使用いただくことにより、お客様の製品におけるCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献するという考えに基づき、独自のKPIとして算出・可視化しています。

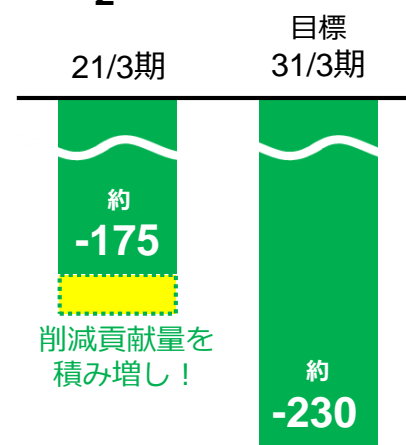
以下にて簡易試験で当社試算

\* 年間販売数量S: 51百万台(モーター台数)  
モーター1台当たりベアリング個数: 2個  
負荷率L: 1  
製品寿命 Hop: 19,656時間  
CO<sub>2</sub>排出係数CaeFe: 0.5001kg-CO<sub>2</sub>/kWh

\*\* スギ1本当たりCO<sub>2</sub>吸収量: 年間8.8kg  
(参照先: 林野庁)

\*\*\* 日本人1人当たりエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量: 年間8.5t  
(参照先: 全国地球温暖化防止活動推進センター)

### CO<sub>2</sub>削減貢献量 (万トン)



## 22/3期 配当

中間配当

**18** 円/株

期末配当 (予想)

**18** 円/株

年間配当 (予想)

**36** 円/株

22/3期の配当は、原則として連結配当性向20%程度を目処としていますが、経営環境を総合的に勘案し、継続して安定的な配当を目指します。

## (ご参考) 21/3期 配当

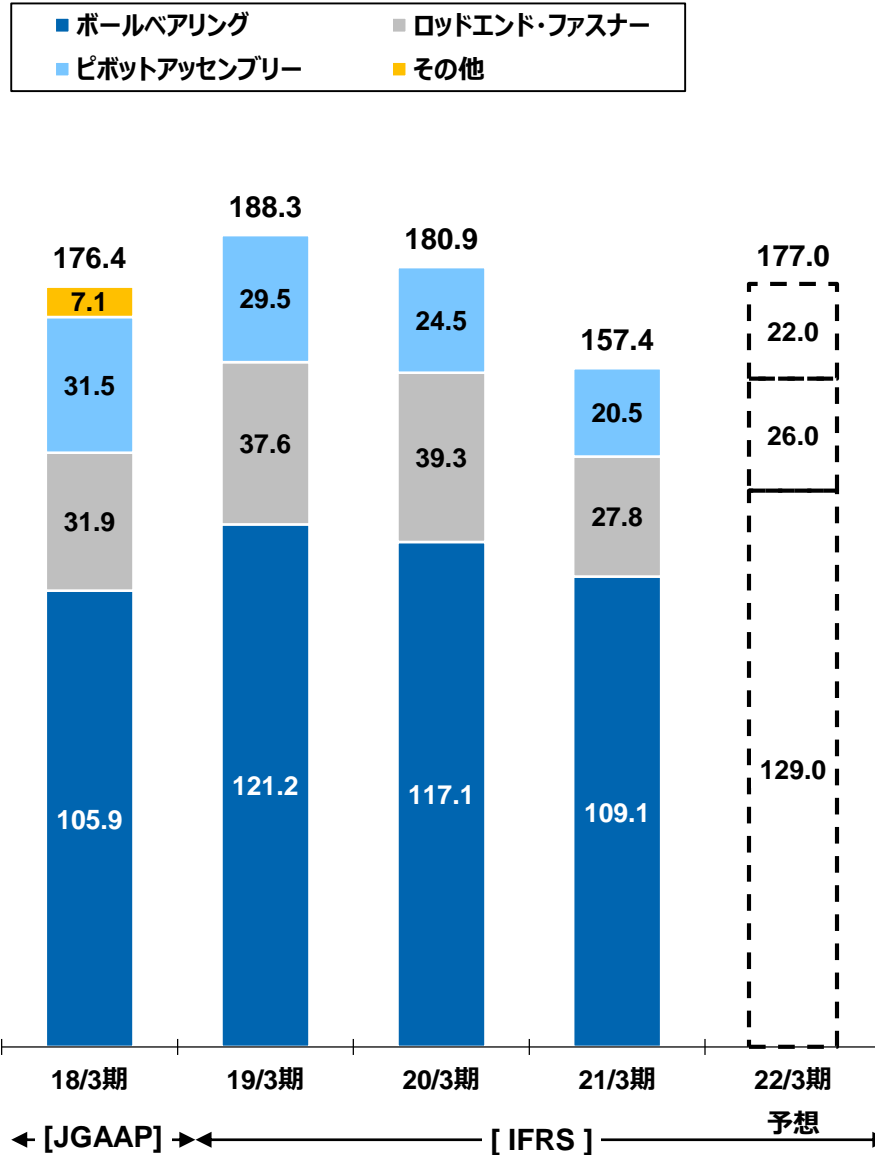
年間配当36円 (中間配当14円 期末配当14円 記念配当8円)



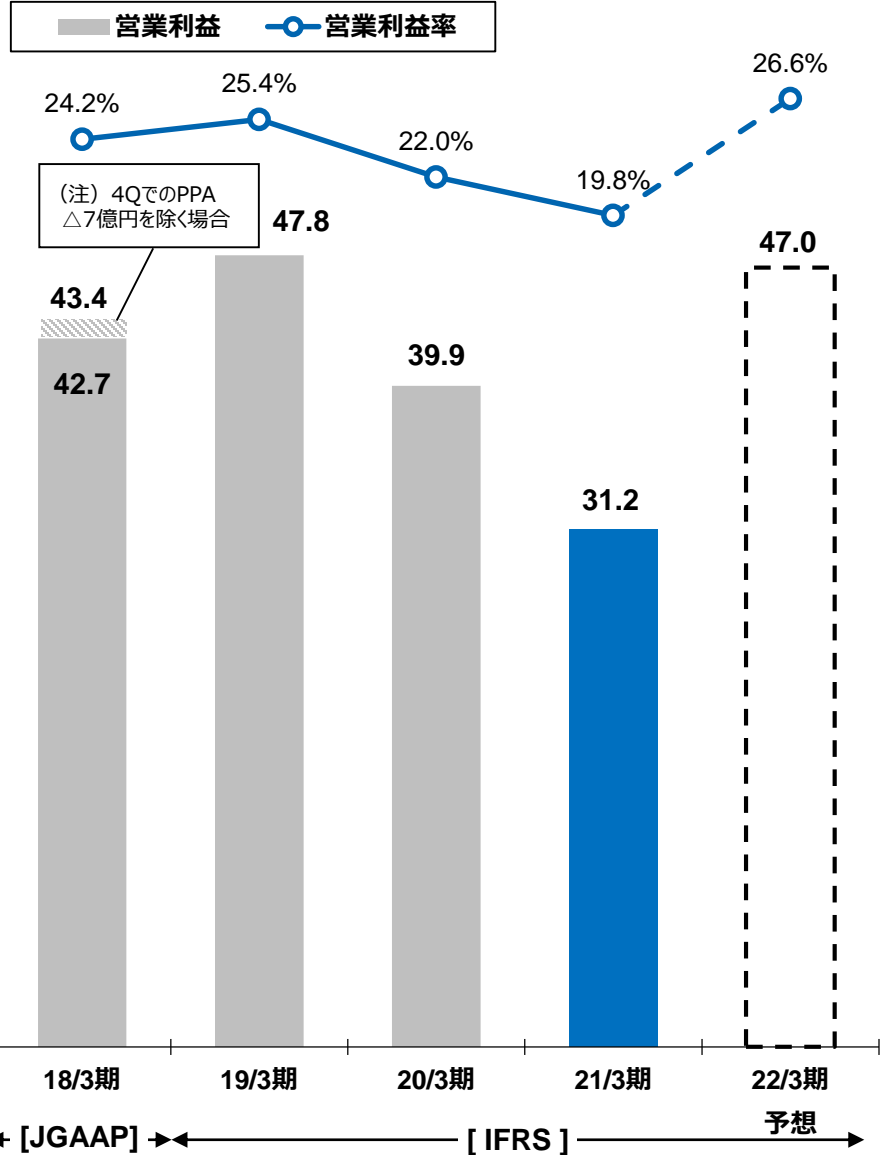
当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しています。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

# 參考資料

## 売上高 (10億円)

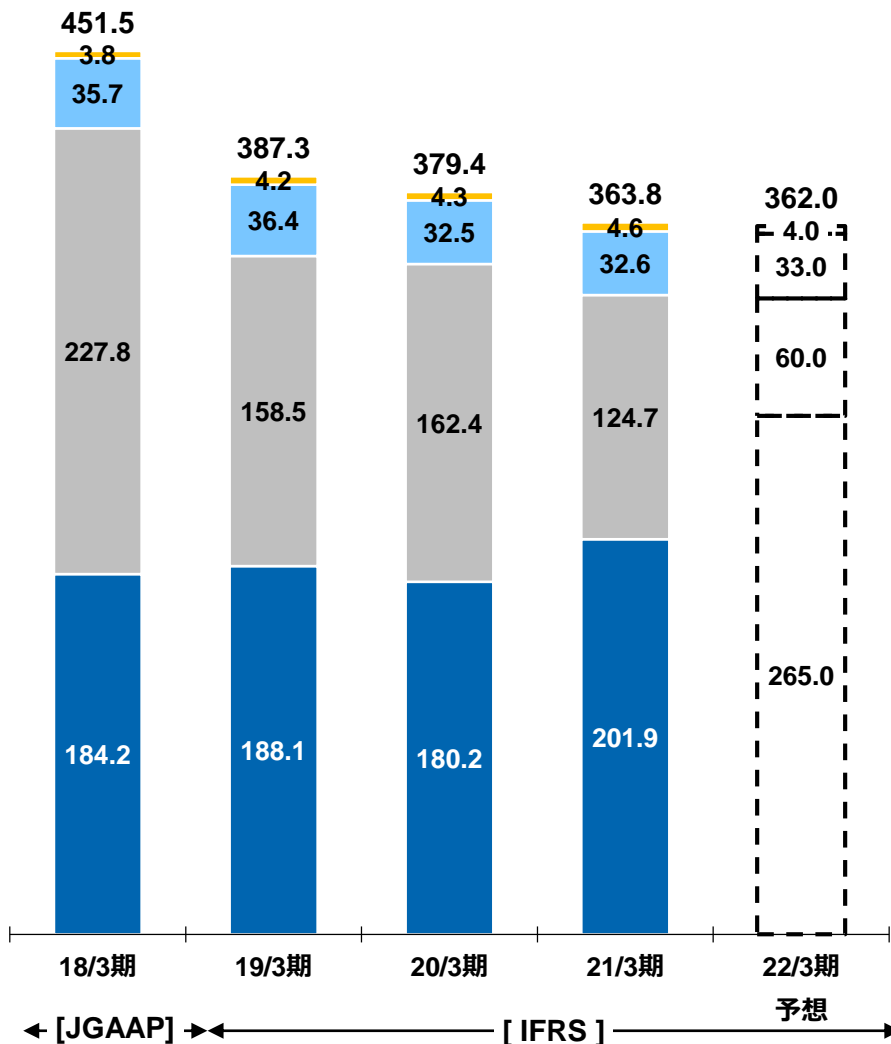
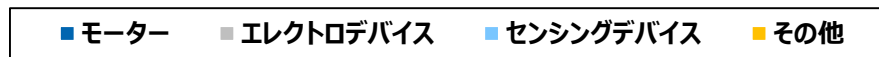


## 営業利益 (10億円)

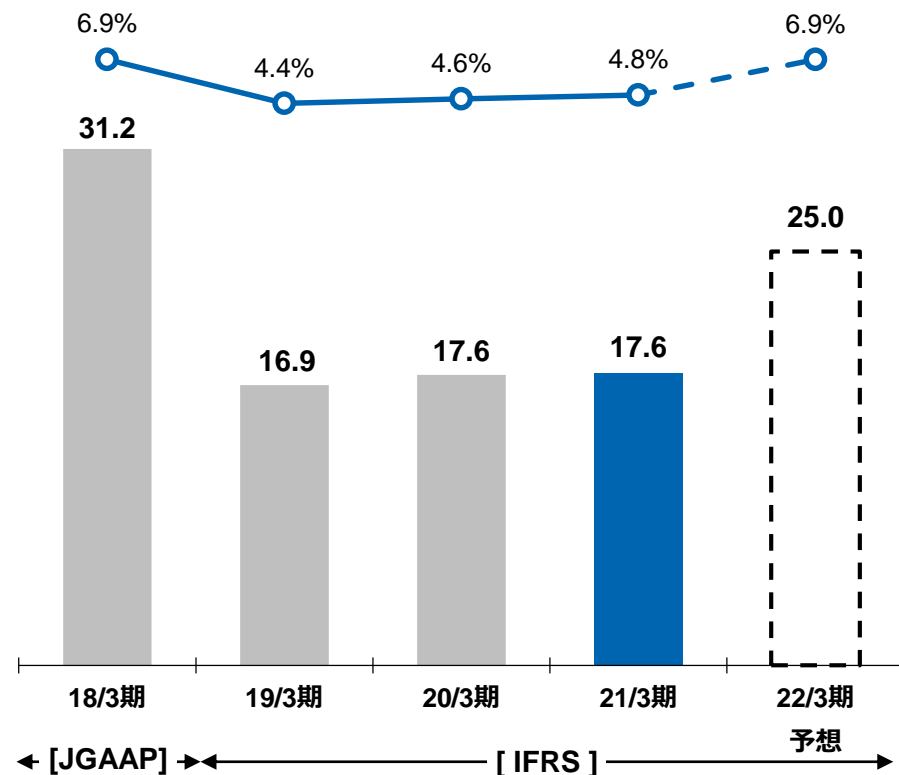




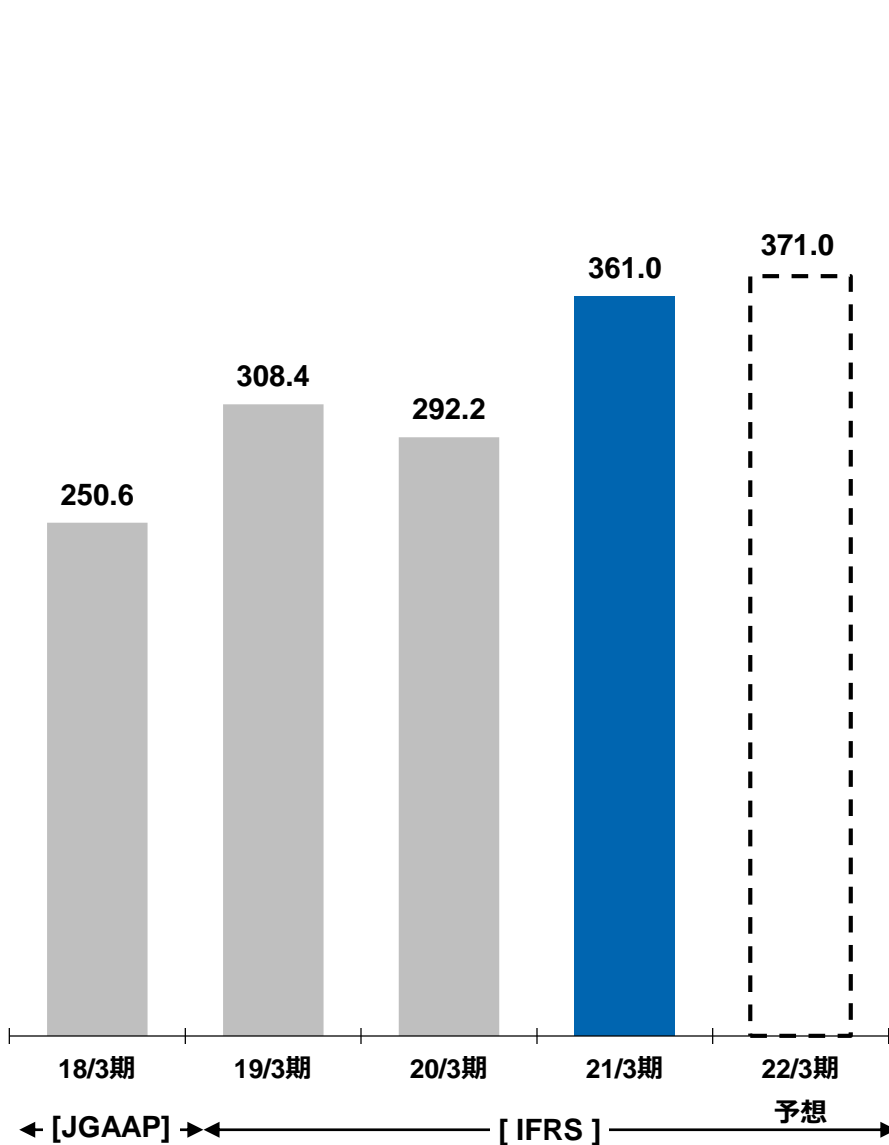
## 売上高 (10億円)



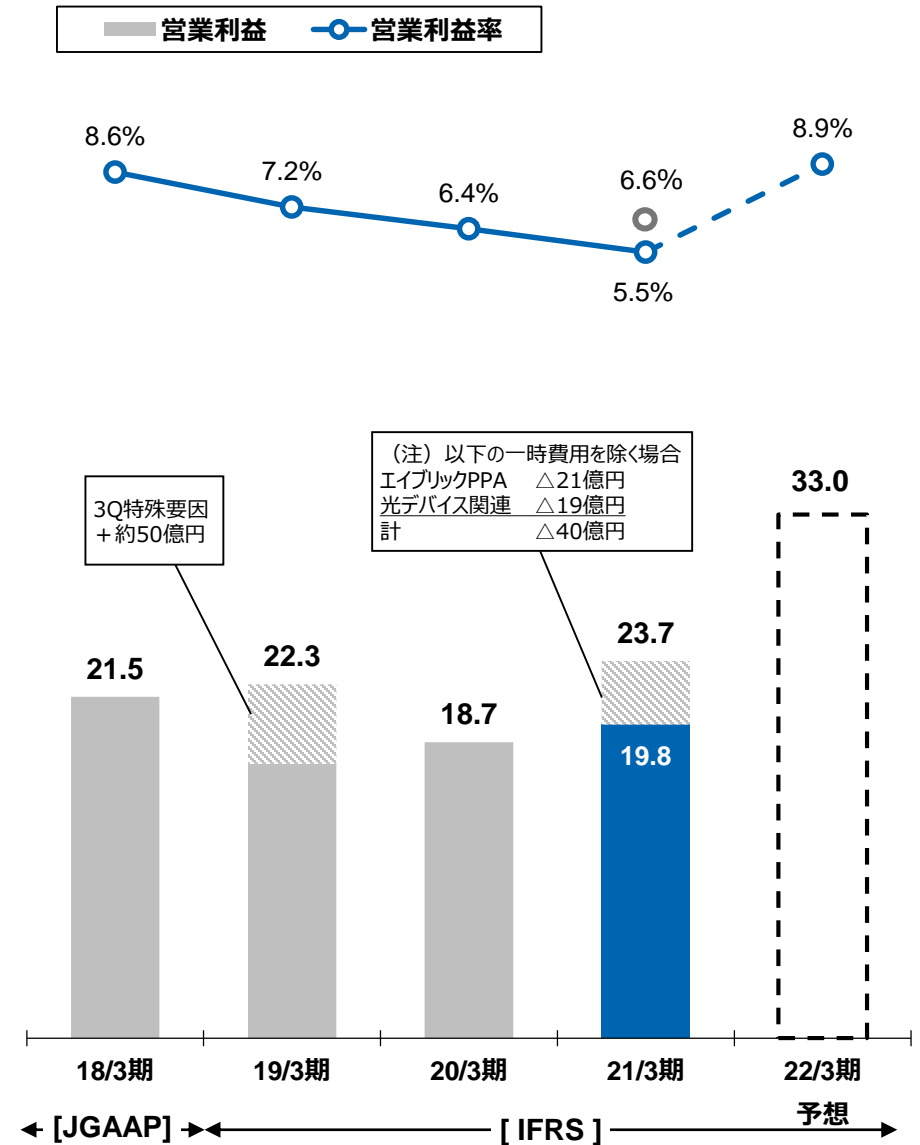
## 営業利益 (10億円)



## 売上高 (10億円)



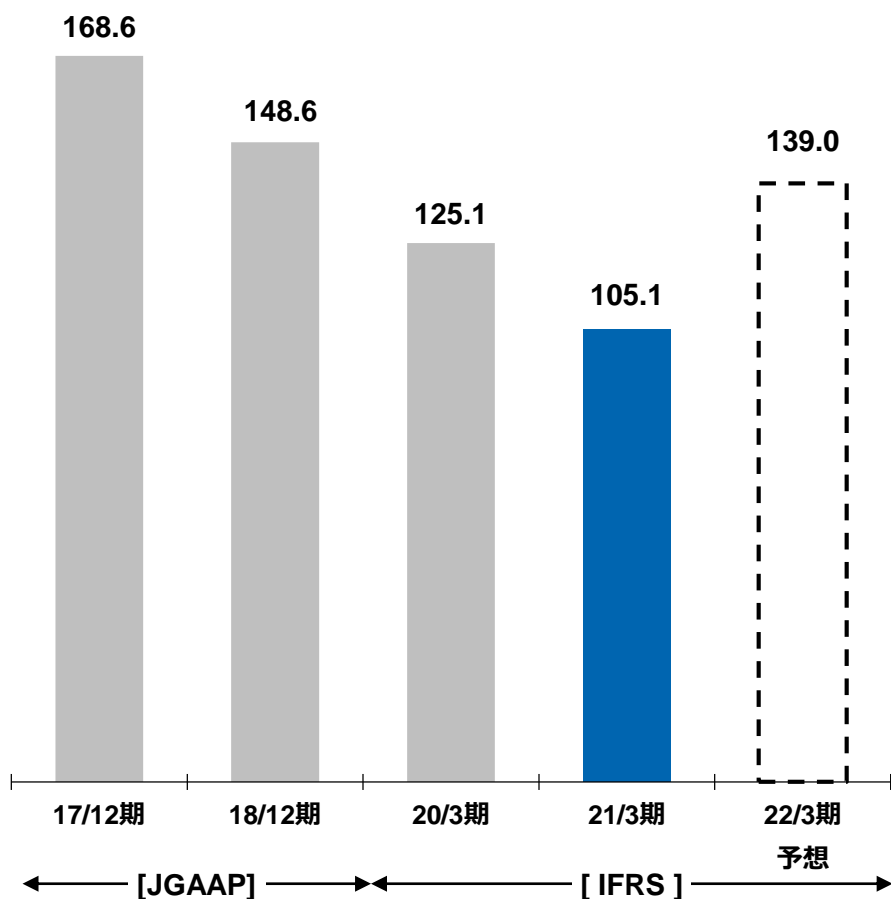
## 営業利益 (10億円)



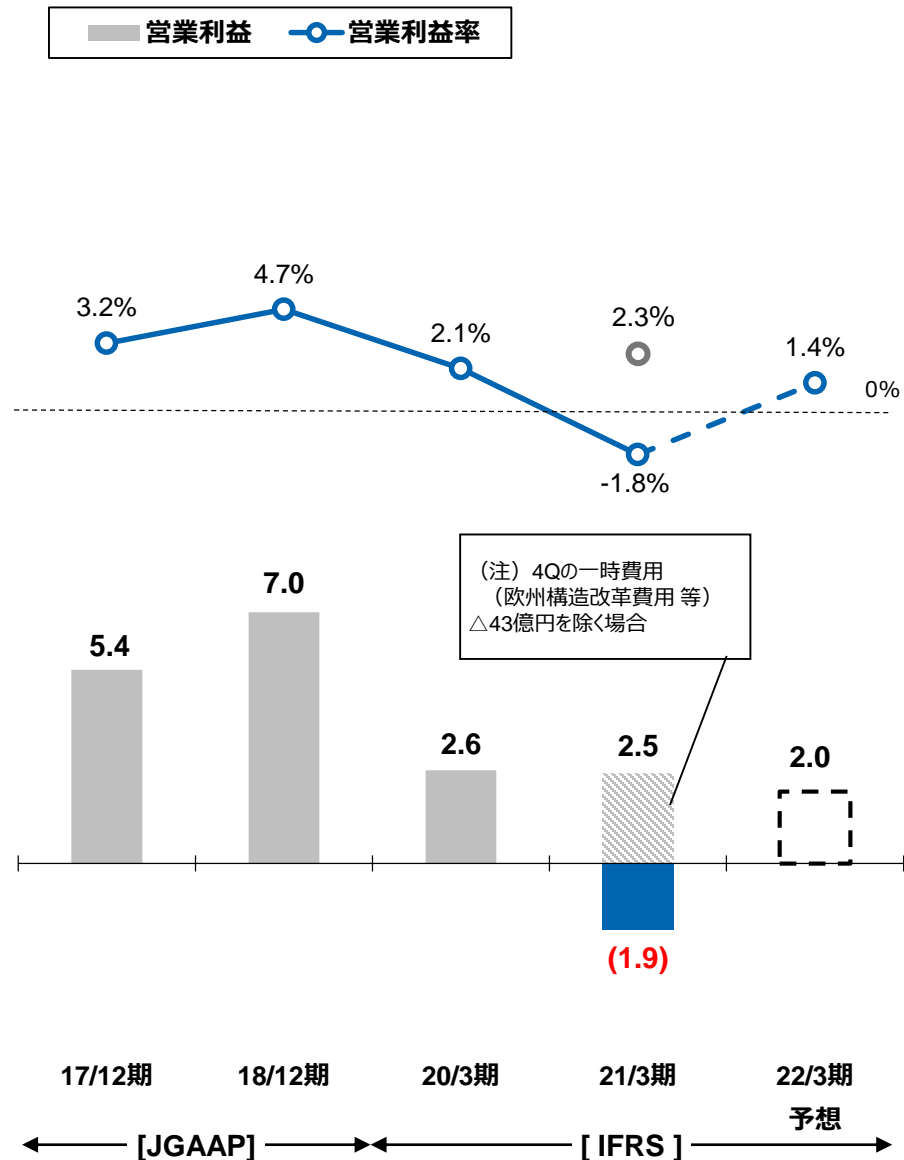
# ユーシン事業セグメント

決算期変更に伴い17/12期は13ヶ月決算  
18/12期以前は経営統合前の参考値でJGAAP  
20/3期は2019年1-3月の数値を含まず

## 売上高 (10億円)



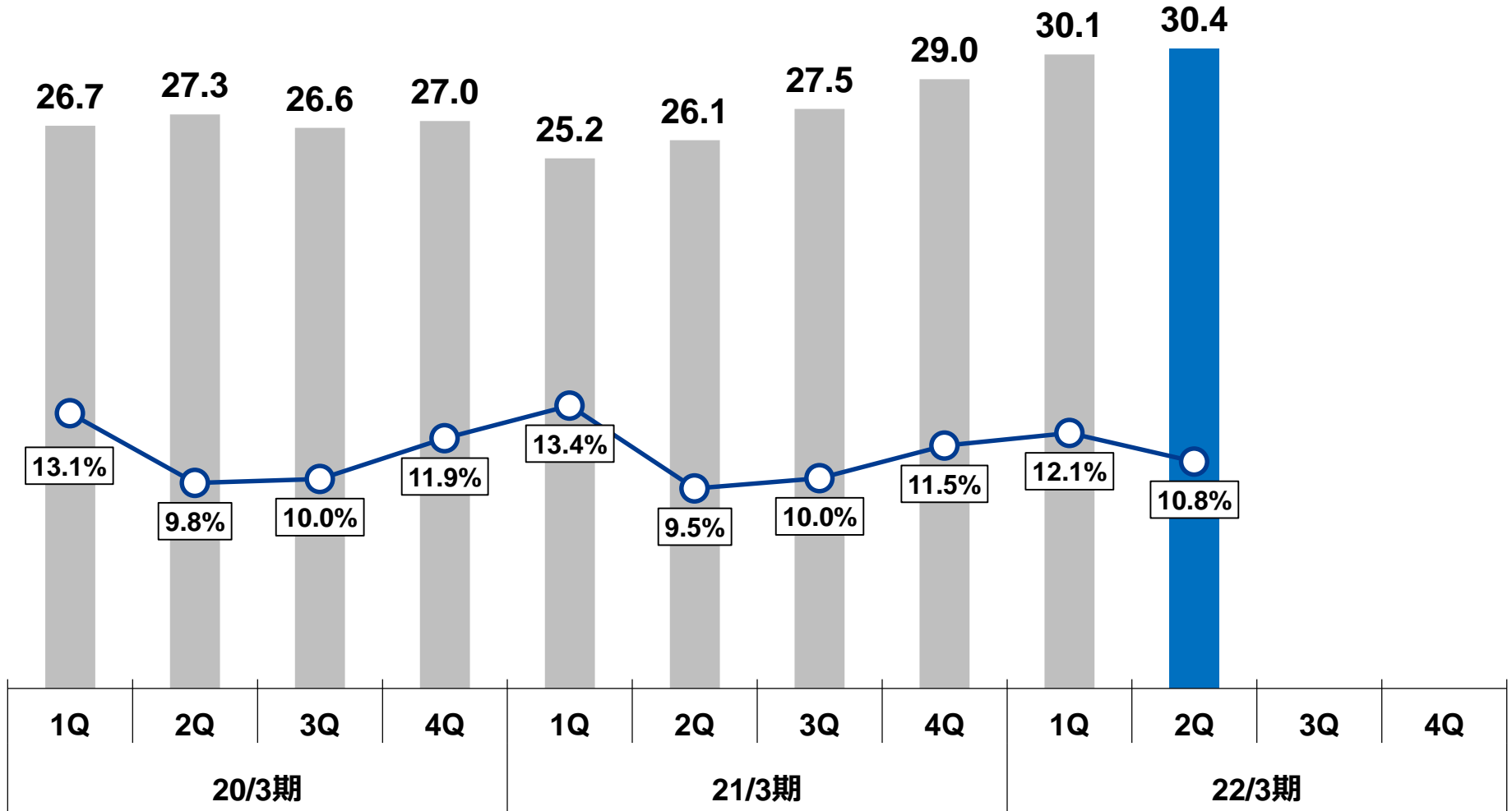
## 営業利益 (10億円)



# 販管費

(10億円)

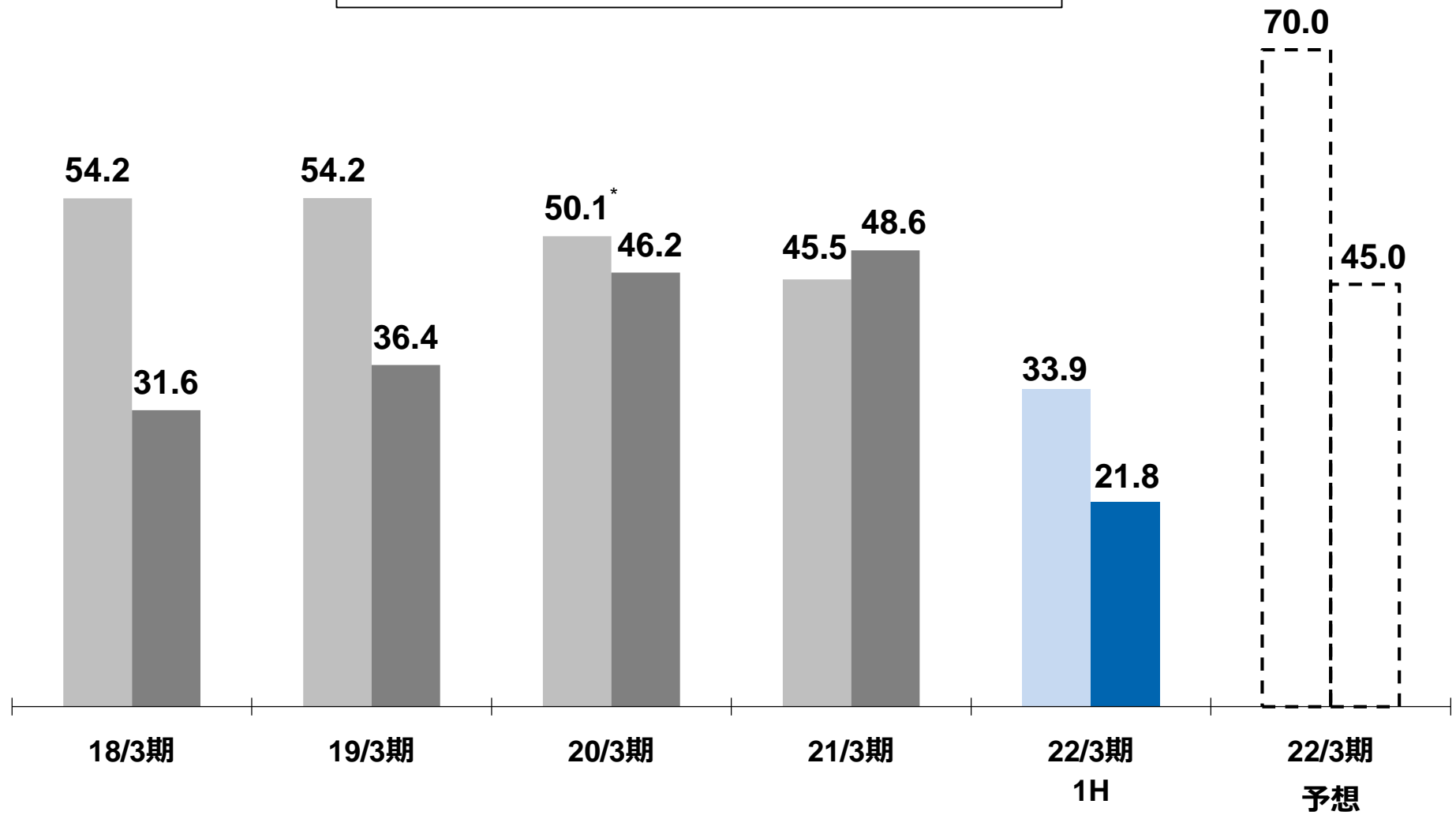
■ 販管費 ○ 売上高販管費比率



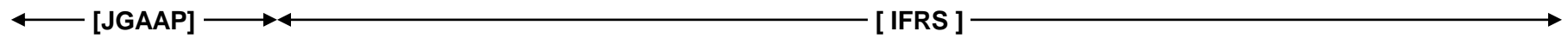
# 設備投資額・減価償却費

18/3期はJGAAP

(10億円)



\*20/3期 設備投資額には、IFRS16号適用開始日に増加したリース資産は含まれておりません。



# ROIC (投下資本利益率)

ユーシン事業は19/3以前は経営統合前の参考値でJGAAP、全社には含まない。その他のセグメントは18/3期以前はJGAAP

ミネベアミツミ版  
ROIC

$$\text{ROIC} = \frac{\text{NOPAT (営業利益+特別損益)} \times (1 - \text{税率})}{\text{投下資本 (受取手形+売掛金+棚卸資産+固定資産-支払手形-買掛金)}}$$

セグメント別で管理できる事業資産（売上債権・債務、棚卸資産、固定資産）で算出

(%)

